僕は将来、農業を生業としたい。農業は人が生きる命に直接かかわってくる重要な職業だ。人にとって一番重要なもので、人間にとって一番の喜びである食べ物を生産する。命が命を育てる。なんて素晴らしいことか。

しかし、どういう農業をしていったらよいかわからない。慣行農業をするとしても一概には言えないが、人の都合によって作り出した化学物質を投入し生産する。つまり食料を安定して生産したいという人間の根本的な欲求による農法。これには何か違和感がある。愛農高校で有機農業を学び、実践しているが、何か、何か引っかかる。何故だろうか？農業の方法にはそれぞれの良さがある。それを農家実習で分かったはずだが何かしっくりこない。

結局は何を目的として農業をするのかに限るのか？お金を目的とするのか？それとも自分の理想に向かってなのか？食の安全性なのか？利便性なのか？大量生産するためか？本当にそれは人によって違う。

ここで人生観、生き方が問題となる。目の前の自分が良ければいい。楽しければよい。つまり、目先の便利さや安さなどにとらわれすぎてはいないだろうか？今、この瞬間が良ければよいという思想にいき過ぎていないだろうか？そんなところばかりに目が行くと本当に未来はないと思う。なぜか？例を挙げてみる。化学物質を大量に使って食べ物を生産する、人の都合に目を向けた考え。自分たち現代人が食事できれば良い、いま食糧生産できていればよいなどのそのような考えが過ぎると前述したように、未来が本当になくなってしまうのだ。重要なのは均衡を保つということではないだろうか？

農薬や添加物など人の都合によって作り出された化学物質には見えない恐怖がある。普段それを口にする本人の健康状態がどうなるかなど色々あるが、化学物質が本当の意味で恐ろしいのは、自分たち現代人ではない。そう、次世代への影響でないかと考えている。それを食べた本人、つまり母親に影響が出なくても、産まれてきた子供に影響が出る可能性がある。自分の子孫にかかわる問題だ。これから産まれてくる子供の未来を考えているのか？そのようなことを考えたうえで、先を見て自分たちは「今」を生きているのだろうか？ここに重きを置いて生活してみてはどうだろうか？

しかし、そのような危険のある恐ろしい化学物質という問題よりも前に食料を供給できるかという問題のほうが先だと思う。

そうつまり食の安全の本質的なところはここにあると考える。

僕は農業をするうえで食の安全性について考えていきたい。

そもそも食の安全とは何であろう。何をもって食の安全というのだろうか？今まで僕はこう考えていた。農薬や化学物質を使用していないもの、添加物の含まれていないもの。オーガニックなもの。有機栽培された、生産者の顔が見えるものなどのことだと思う。それを、この今の日本の社会の中で求め続けることが重要だと思っていた。

化学物質という人が勝手に作り出したものに皆さんはとらわれすぎてはいないだろうか？むしろそれがすべてをややこしくしているのだと僕は思っている。そのような問題よりも前に食糧を供給できるか？の問題が先だと思う。

食の安全とはただ化学物質が危険だなどの食べ物がある、作れるという前提の問題の話ではないと考えている。もっと本質的なところでいうと

「毎日きちんと食事ができるという保障があるということ」だと考えている。

今の日本の自給率の低さは４割を切っている。そこに目を向けるべきではないか？生きるために必要なところに目を向けないで、何を現代の人たちはみているのだろうか？自分事としてとらえてほしい。飢えは生き物にとって最大の恐怖といっても過言ではないだろう。自分たちの今の当たり前とされていることが当たり前でなくなってしまうのを想像してほしい。

お金を払えば物は買える。そのお金というものを当てにしないでほしい。お金という手段を使うのではなくその人自らが生きるために必要なことを考えることが大切であるということ。本当に必要なのはお金ではない、食べ物である。そこを間違えないでほしい。

生きることは食べることである。食べるためには作らないといけない。食べ物を作らないと生きてはいけない。その食べ物について深く考える。そのような人にとって一番大切なものである食べ物を考え続けないことには本当に未来はない。皆さんも絶対にわかっているはずだ。わかっているということに気づくことができることが重要だ。化学物質どうこうの問題ではないと思う。その食べ物の必要性を深く追及したいからだ。そしてその食べ物について考えることに重きを置くために僕は農業をしたい。

農業を通して毎日の食事ができる保障がある日々を作り出したい。人には命をつなぐという欲求があるから農業をする。命をつなぐために、そして生き続けるためにする農業をする。

自分の生業として農業という選択肢しか僕には見えていないのだ。